

## 平成30年度 第2回墨田区区民行政評価委員会 会議概要

開催日時：平成30年9月3日（月） 午後1時30分～午後4時00分

開催場所：墨田区役所17階 第1委員会室

### 1 開 会

会長の挨拶で開会し、事務局から配布資料等について、説明が行われた。  
前回欠席の野原委員から自己紹介があった。

### 2 議 題

政策110 伝統文化を継承、発展させ、新たな文化・芸術を創造する

施策111 郷土の歴史・文化を継承し、発展させる

施策112 すみだの新しい文花・芸術を育てる

(B委員)

111の二つの指標はやや適切ではない。

「伝統文化が保護、継承されている」と思う区民の割合がどのような状況なのか、伝統文化なのか、文化財が大切に保護されている状態なのかがよくわからない。

難しいと思うが、文化財の収集保管というものが、どの程度進んでいる中での理解度なのか等を指標にすると適した指標になる。

112の10年後のすみだの姿について余り具体的なイメージがわからない。

新しいすみだの文化芸術が創造されているというのは、新しいものを期待して記載されていると思うが、どういう姿を描いているのかイメージできない。

過去1年間に文化芸術活動に参加した区民の割合、これは指標の根拠であるアンケートが「した」「しない」を選択する設問となっているが、一度でも参加すれば「した」になってしまうので、それでいいのか疑問がある。文化芸術への深度が深まっていくことが大事であり、その上で新しいものが創造されていくという状態が将来の姿だと思うので、単純に参加した・しないという指標が適しているかは疑問。

二つ目の区内アーティスト・文化芸術団体及び施設の「すみだ文化芸術情報サイト」登録数は目標を表すものとしては少ないという印象である。

母集団がどのくらいあるのかわからない中ではあるが、二つの指標が、10年後のすみだを表す指標として疑問があるため、見直し等を検討した方が良いと思う。

(D委員)

アンケートが個人の情緒を回答するものである、指数にはならないという感想である。その中でもむしろと思うのは南部と北部で数値が違うことである。北部が低い理由としては、北部の歴史的資産はほとんど防災団地の中にあるからである。

古代の官道から隅田宿、そこには何にも書かれていないし、墨田区としては何にも顕在化する努力もしていない。

所管が東京都だから墨田区は関係ないと言っていいのか。木下川水門なども大切であるが記載がな

い。研究されていないのはちょっと寂しく感じる。少しでも歴史的資源をリンクさせるっていうようなことが必要ではないか。

特に北部は、住民もほとんど関東大震災以降に住んだ方になっており、町の歴史を顕在化する努力はしなくてはならないということでこういう結果になっている。

#### (E 委員)

伝統文化が保護継承されていると思う区民の割合のうち、「どちらかといえばそう思う」を伝統文化が保護継承されていると思う区民の割合に含めているが含めてしまってよいのか疑問がある。数値のとらえ方としては楽観的ではないか。

旧安田庭園等は、関東大震災や明治周辺以降、東京にとって非常に重要な歴史であり、東京の産業革命、明治政府を本当に産業で支えた場所である。

その歴史はやはりもっと注目した方がいい。そういうことが示せるような調査を行ってはどうか。

#### (C 委員)

古くから墨田区に住む人達の割合や新しく墨田に来た人たちの割合がどの程度かということも施策を考えるうえで大切になってくると考える。伝統を継承していくためには、古くから墨田区に住む人が伝えることや新たに墨田区に来た人たちに墨田区の歴史を知ってもらうことが大事。

#### (A 委員)

施策の111の指標を区民アンケートから作成しているが、何か客観的な指標はないのかなということには気になる。文化財の数や、あるいは継承すべきものを客観的に、数値化してそれが豊かになっていく、こういった客観指標と主観指標を組み合わせるような形が望ましい。

施策111の2つ目の指標が「墨田区の歴史や文化を学んでいる区民の割合」と記載されているが、アンケートの設問の「あなたは墨田区の歴史や文化についてもっと学びたいと思いますか」と内容とずれており修正が必要。

施策の112については、B委員の発言にもあったが、1度だけの参加でいいのか疑問があり、回数や聞くような設問とすることはできるのではないかと。そういった点でホールの来客数等の客観的な指標で捕えることができるかもしれないと思う。すみだ文化芸術情報サイトの登録がそういう代替指標になっているということであれば、それでかまわないが、やや疑問がある。

#### (区職員B)

行政のアンケートは回答者が偏らないように無作為抽出を基本に行っており、古くから居住者の方や新たに居住者となった方などの属性を分けずにきいている。

客観的なデータを捕えることについては、私もそのとおりでと思うので、どう改善できるか考えていきたい。

## 政策 1 2 0 すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる

施策 1 2 1 すみだの魅力を広く発信し、訪れたいまちをつくる

施策 1 2 2 区内の観光資源を連携させ、楽しめるまちをつくる

施策 1 2 3 訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる

(D 委員)

全施策総じて所管課データを基に指標の設定がされているので、納得できる指標であると感じる。

ただ、施策 1 2 3 については、この計画ができたときには想定外の民泊問題が発生している。個人的には迷惑に感じる、可能であれば推進してほしくない。そういう意見をどのように反映させたいかは難しい。

水辺を活かしたことであれば、防災団地に古代から「すみだの渡」があるので、東京都等との協働があればこれが生きてくる。

(B 委員)

私も政策 1 2 0 に関しては概ねこの指標で良いと考えている。少し気になった点は、施策 1 2 3 の指標の一つ目の、外国人観光客の来訪者満足度と、ターゲットを外国人に限定した指標となっているが、国内の方も対象にすべきだと思う。

施策 1 2 2 では、東京スカイツリーの集客力を区内全域の回遊性を高めることが課題であり、区内観光施設等の平均立ち寄り地数を指標としているが、観光客のスケジュール等により前後してしまい目標値としては、妥当なのか疑問がある。今後は回遊性を測るような効果を測定できる指標等の検討が必要なのではないか。

(E 委員)

資料見て、本当に多くの方が来訪していると感じた。まち歩きガイドツアーは大事だと思う。

本区には寺社仏閣や隅田川文学、関東大震災を乗り越えてきた歴史等、振り返りながら指標を設定することが大事。

(C 委員)

施策 1 2 3 「訪れる人を優しく迎える、おもてなしのまちをつくる」としているが、迎えるということは迎える側の人がすごく大切になると思う。今年の夏休みに韓国の小学生ホームステイを受け入れた。小学生の長男は、初めて海外の人と触れ合うということで、いろいろ考えて接していた。10年後には、いまの子どもたちが迎える側の主役になりうると思うため、子供たちが外国人をおもてなしする機会を増やしていけるとおもしろいと感じた。

(A 委員)

指標としては客観的な資料に基づく指標で問題はないと思う。

国際観光都市という観点から言うと、外国の人の目から見て、すみだがどう映っているのか、たとえば外国人がよく使うサイトの中で、どのように扱われるか、そういうものを把握するということが大事である。

(D 委員)

東京スカイツリーに「上る」ことがキーとなっているが、「眺める」等へも施策を展開させたほうが今後につながるのではないかと思う。

(区職員B)

スカイツリーを核としてどのように、区内全域に、どのように浸透させていくかということが当初の目的だったなど、今はこの指標でいいのかもしれないが、時代に合わせて、考えていかなければならないと思うので、今後の課題とさせていただきたい。

政策130 水と緑を活かした、美しい景観をつくる

施策131 地域ごとの特色を活かしたまちなみをつくる

施策132 水と緑に親しみ、うるおいとやすらぎが実感できる空間をつくる

(B委員)

施策131の指標「電線類の地中化整備延長」と記載しているが、非常に個別具体的な指標になっている印象である。取り組みの一つではあると思うが、事務事業の指標のイメージがあり、施策の指標としてはもう少し大きい観点がよい。

施策132は、区民が住みなれたまちであると感じていくという方もいるので、指標としてはいいと思う。

(E委員)

施策の目標として町並みが美しい、建物が増えたりキレイになったりすることはいいことだが、小奇麗なことが大事である。掃除が行き届いているとか、玄関先の植木が手入れされているとか何か心遣いが町の中にあふれていることが大事である。ソフト面や考え方が大事である。

(C委員)

指標に関しては特に意見はないが、施策132に、旧中川沿いの整備の写真が掲載されているがこれは本当にすばらしい、ありがたい事業である。

私自身もマラソンしたり、子どもたちの自転車の練習をしたりしているが、他にも魚釣りしたり、各町内で花壇を作ったりして、少し見ただけでいい効果がでていると思える。安心して安全な場となっている。

(D委員)

「緑」というのは、園芸植物を植えて花を見せればいいというのは少し違うと思う。多くの公園では花が散ると取りかえてしまう。これが本当に自然なのかと思う。逆に見える緑という点では向島地域に「緑比率」は高くないが、見える緑は多くある。そういったことが今の指標では見えてこない。「緑視率」みたいな指標があればよいが。

(A委員)

客観的な指標と主観的な集票を組み合わせた形で指標をつくろうとされていることは良い。

電線の地中化というものが客観的な指標となるかは疑問がある。しかし、ほかに何か指標があるかというのと、若干難しく感じる。

また、「地域ごとの特色」を活かすという以上は、「地域の特色」を捉えることが必要ではないかと思う。

施策の132は緑被率を客観的指標と設定しているため、いいと思う。他の指標としては、水辺の体験イベント等の参加者数等が考えられるが、指標を増やすのはよくないということであれば、緑被率だけでもよい。

(D委員)

向島地域には長屋があるが、構造的な問題などもあり、そのまま残すのは難しいと思うが、向島特有の景観として、雰囲気などをどのように継承していくのが問題になると思う。

関東大震災頃の質の高い昭和初期の木造建築があるが、そんなに古くはないので、文化財登録等はないが、すみだらしい景観というので、消えてしまってよいものか考える必要がある。景観というのは「きれい」「汚い」だけでは測ることができない。

(A委員)

愛着がある景観というのは、人工的なきれいな景観というわけではない。

(区職員A)

計画の指標を作ったときはこの指標しか思いつかなかったが、世の中がかわってきており、我々の日常が観光資源になりうるという視点でも検討が必要ではないかを感じる。

墨田区は内河川が多く、川が日常的に感じられる。今後も様々な企業や地域の方々と一緒にいごこちがいい空間を作っていくようなまちづくりをしていきたい。

(A委員)

区民が安全に利用できるような水辺延長を指標にすることもできるのではないか。

(D委員)

潤いと安らぎが感じられる空間として、河岸はあるが「川の上」というものがない。水上を楽しむという考えも必要。防災や水害の面でも役立つのではないか。

(B委員)

アンケート調査を指標に多く取り入れているが、墨田区の取り組みや特徴をとらえるために、区民に伝わっているかどうかを質問項目にしたほうが良い。

## 政策 2 1 0 多様な都市機能が調和したまちをつくる

施策 2 1 1 職・住・学・遊が調和したまちづくりを計画的に進める

施策 2 1 2 多様な世帯に対応した、魅力的な住環境を形成する

(D 委員)

「まちをつくる」という表現はあまり良くないのではないかと。まちは「育つ」ものであり、行政はそれをサポートするものではないのか。

施策 2 1 2 の今後の課題に老朽化したマンションの増加が見込まれることが記載されているが、これが非常に注目すべきことで、高齢化や民泊等多くの課題が含まれている。

指標で区民のすみだの町に対するアンケート結果を使っているが、本所地域に居住する区民は向島地域のイメージができないので、区全般としてどう見えているかは非常に難しい印象である。

(B 委員)

政策 2 1 0 の指標については、難しく感じた。

まちづくりは行政だけでなく、区民や事業を起こす人々がお互いに力を発揮していくことか必要であり、三者の力が合わさった形での 10 年後のすみだというものがイメージされるべきだが、行政目線のニュアンスとなっている。

施策 2 1 1 では地区整備計画区域面積を指標としているが、計画をたてることが重要なのではなく、どのように実行されているかが大切である。

住環境やまちづくりというのは三者の役割や協働が必要ということがより明確に伝えられるような表現の記載があった方がよい。

(C 委員)

先日の都市計画マスタープランの改訂に伴うワークショップにおいても住む地域により課題が違っているため、区の全域について意見をまとめるのは難しいと感じている。

大学等を誘致したが、ありがたい反面ワンルームマンションが増加することにより発生するトラブルを不安に思っている区民も多少いる。

(E 委員)

まちづくりの計画をたてるのはおそらく事業者がメインになると思うが、行政として計画に区民のアイデアが活きるようにすることが重要である。

(A 委員)

他の自治体においては、人口減少によりまちを畳んでいかなければならない等の問題を抱えているが、墨田区は恵まれている。都市インフラの老朽化対策というものがこれから顕在化していくと思うが、計画に記載するような大きな課題としなくても良い点は、墨田区は幸せだと感じた。

地区整備計画の区域面積だが、計画の策定だけではなく、達成状況を指標として加えるということが必要。

施策の 2 1 2 は所管の主観的なデータだけではなく、客観的なデータとして、必要とされる住環境に即した住宅が供給されていることを測る客観的な指標がもしもあれば、設定したほうがよい。

(D委員)

まちづくりの観点から困るのは、相続問題である。相続に際し、まちの実情を知らない事業者に土地が販売されており、いろいろと問題が起こっているが行政等が相談体制をつくるなど対策はできないだろうか。

全体を通して「土地」というもの焦点を当てた指標がないので、入れたほうがよい。

(B委員)

施策212の「墨田区にずっと住みたい」区民の割合についてだが、実際にどのくらいの人が住み続けて、どのくらいの人が転出を余儀なくされているのかというのは比較的客観的な数値なので、指標として設定できるのではないか。

(区職員B)

住環境についてだが、墨田区は江東区のように土地が増えないこともあり、住居の面積がどうしても少し狭い傾向にある。そういう理由もあり、世帯構成の変化に伴い、住環境のことを考えて他区へ引越しされる方も多い。

現状は墨田区の利便性を考えて住む方が増えているため、1番多い世帯構成は単身者になっている。区としてはその点について対策しなければならないと思っている。

(区職員A)

ワンルームマンションについては、区民から意見を踏まえ厳しい条例をつくったこともあり、建設しにくい状況にはある。

「墨田区にずっと住みたい」区民の割合については、指標の設定が難しく、「ずっと住みたい」を指標としているが、他の選択肢で「当分の間住みたい」というものもあり、合計すると8割程度の回答を得られている。墨田区としては、この2つの回答者を増やしていかなくてはならないと考えている。

政策 2 2 0 区民が安全・快適・便利に暮らし、人々の交流が生まれ、移動しやすいまちをつくる

施策 2 2 1 主要駅を中心とした広域拠点と、身近な生活拠点を形成する

施策 2 2 2 安全で快適な暮らしを支える、便利な交通環境を形成する

(B 委員)

指標の 2 2 1 だが、設定されている 2 つの指標が、類似性の高い主観的な指標となっている。1 0 年後のすみだを達成するために、墨田区が何をしていくのかイメージがわからない。事業が周辺整備事業とまちづくり事業が多くなっており、この事業と施策の目標である「1 0 年後のすみだ」の関係に疑問がある。インフラの整備も必要だが、ソフト面も必要。そういった視点の指標がとれるといいのではないか。

(D 委員)

施策 2 2 1 の指標にあるように、再開発によりきれいになったと思う反面、なじみの店が多く無くなってしまったことは残念。来外者向けにはチェーン店等もいいが、個性ある地域を活かしていくためには、この視点も考えていかないといけない。来外者だけではなく、区民が利用していることも併せて考えなくてはならない。

循環バスについては高齢化社会の要としてもっと注目していった方がよい。

(E 委員)

新規の転入者は大切だが、その中で核となるような人物を見つけることが特に重要である。

(C 委員)

公園等公衆トイレ整備事業について、誰が利用するのか疑問に思う公園もある。暗く利用し辛いトイレも存在しており、利用実績の上がないトイレもある。数ではなく「利用しやすい明るいトイレ」を増やしてもらいたい。

(A 委員)

施策 2 2 2 の指標に道路バリアフリー整備延長だけ掲載されているが、道路だけではなく、駅や建物等も考えるべき。課題に適合したような、高齢の方も便利に病院に行ける等の観点の指標というものがあれば設定した方がよい。

(区職員 B)

区内循環バスについて意見があったが、コミュニティバスではなく、観光バスということで認可されたものである。

トイレについては特別区内で面積あたりで 1 番トイレが多いのが墨田となっている。そのため、トイレを一つ一つ管理していくことでまたコストがかかってしまうので、問題となってしまうかもしれない。

(E 委員)

生活弱者に配慮したまちづくりという視点が大事だと思う。そのことがみんなの安心安全につながり、将来長くここに住んでいこうと思うことの基盤になる。

### 政策310 新しい価値を創造し、産業の進化・発展を図る

施策311 グローカルに活躍できる人材を育て、技術・技能を継承・発展させる

施策312 新規参入・異分野との連携・融合を促進し、次代のものづくりを育む

施策313 「ものづくりのまち すみだ」をプロモーションする

#### (C委員)

施策311の「フロンティアすみだ塾への参加者累計数」については現在累計で170人となっており、2年後の187人はクリアすると思う。この事業は経営を行う上での心構え等をディスカッション形式で学びいくものであり、そのときにできた人脈や経験はいまでも活かしている。

#### (D委員)

フロンティアすみだ塾のように事業主を対象にした施策は非常に良いと思っている。

勤めている人向けの支援もあったもよいのではないか。例えば保育士の家賃補助など事業の趣旨は良いと思うので、見える形にしてほしい。

#### (E委員)

企業の規模は幅がある。ライオンのように大手もあれば、中小もある。墨田区ではかなりきめ細かく支援をしているように思う。これからも若手の起業者の支援の視点が重要。

#### (B委員)

政策310に関しては、それぞれ妥当な指標が置かれている印象であるが、最終的に取り組む事業者がどれだけ生き残ってくれているのかという指標も取れればと考える。

#### (A委員)

施策311は概ね適切な指標である。

施策313については、区内製造業における付加価値額と指標設定しているが、基本計画を策定する際には無かったデータ（RESAS）が総務省から示されている。特に強みのある産業にスポットを当てたデータを指標にすることも検討してみてもいい。

#### (区職員B)

新たな指標としてRESASを活用することはそのとおりだと思うので、検討していきたい。

#### (C委員)

新しく区民になった方には、ものづくりのまちすみだということが知られていない。過去にはものづくりのまちであったことは知られているが、「現在も」ものづくりのまちであることを伝えていく必要がある。

ビジネスサポートセンターの事業は非常に手厚いすばらしい事業だが、知られていない部分はまだある。

## 政策320 こだわりをもった魅力ある商業・サービス業の集積を進める

### 施策321 消費者から選ばれる魅力ある個店の集積を進める

### 施策322 地域の資源を活かした、特色ある商業空間を創出する

#### (D委員)

商店街については、後継者の問題や家族構成の変化等により非常に厳しい状況にある。

リーダーの育成が必要と書いてあるが、そういった人がいないのが現実である。区内のいいところを知るために区内のお店を知ってもらうしかない。

#### (C委員)

今年度、すみだジャズフェスを北部で開催したが、仕掛け人は区外から来た人だった。きらきら橋商店街などの北部地域についても魅力的なところが多数あるので、そこを盛り上げていきたいということで開催したが、そういう人たちをつかんでいくことが大切。

#### (B委員)

魅力あるお店は実際にあると思うが、お店に来てもらうことが目的化してしまっただけではいけない。特色あるまちづくりを目指すことと、魅力あるお店があることにより実際にお客さんが来て、消費も増えるため、そういうまちづくりを目指す指標を設定してもらいたい。

指標が経済センサスを基に設定しているが、墨田区の取組みの特徴的な部分が見えるのかよくわからない。

小売吸引力指数もそれをどの地域で消費しているか細かく取った方がよいと感じる。

#### (区職員B)

この指標は私が産業振興課長のときに設定したが、非常に難しかった。

高橋副会長の意見にあった、各地域の数値を細かくとることについては、数値自体は把握しているが、地域によりバラつきがある。墨田区全体として見たときに、指標が上がっていることは事実である。

#### (A委員)

スカイツリー周辺に人が集まり、商店街が衰退していくという状態がこの資料では、測れないのではないかと思う。

主観的指標についてのアンケートだが「イエス」「ノー」で回答させているが、本当に地域の買い物飲食を楽しめるかどうかを測るのは難しいのではないか。

#### (区職員A)

例えば外国人観光客の実態調査では、墨田区では飲食をしていないという結果がでている。東京スカイツリー以外の区内の飲食店がわかりにくいという実態があるのかもしれないため、広報していく必要がある。

### 政策 3 3 0 誰もが輝きをもって働けるしくみをつくる

#### 施策 3 3 1 誰もが能力を発揮できるよう就労支援を展開する

(C 委員)

就労支援や合同面接会が雇用につながったと良く聞いているが、雇用したところで終わってしまっており、定着率は高くない。「定着」という視点も大切。

(B 委員)

施策 3 3 1 は雇用促進就労支援事業による年間就職決定者数を指標として設定しているが、どれだけ継続して雇用状態にあるのかという点が加味されていないので、改善が必要。

目的は、区民が、「仕事をすることで、充実した生活を送れているのか」であるため、就労者数の割合や区内労働者の労働人口と就業者数の比率等の具体的な数値を指標にしてはどうか。

(E 委員)

女性と若年雇用が主となっているが高齢者や障害者の雇用についても加味したほうがいい。

(D 委員)

区内事業所に就職する人のための施策か区外で仕事につきたい方の施策が中心になるのかっていうのは、見えてこない。

(A 委員)

施策 3 3 1 の「仕事をすることで、充実した生活を送れている」区民の割合は区外で就職している人も含まれているため、区の事業により就職している人をつかまえないのではないか。区内事業者における働き方改革の進行状況のようなことも捕まえる等、もう少し工夫の余地がある。

(区職員 B)

雇用主のための施策なのか、働いている方のための施策なのか、わかりにくい点があるので、検討する。

### 3 事務局連絡

事務局から次回の日程等について説明を行った。

～閉会～